

特集②★座談会

リバイバル 神戸

昭和8年第一回のミナト祭のミス神戸



★昔なつかしさラン燈恋し

—今日は、昔話あれこれということで大正から昭和初期にかけてのいろいろな話題、事件を追つてお話をいただきたいと思います。その頃永田さんはどの辺にいらっしゃったんですか？

永田 今の大丸前のところです。

町並みはだいぶ変わりましたがあの当時いらした方で今でもいらっしゃるのが岩見屋さん、セリザワさん、宮崎さん、それと今、豊田販売店といつていますが天川というミシン屋さんがありましたね。

小林 あすこに神社がありますね

永田 ええ、吉川英二さんの小説にも出て来る河原兄弟のまつてある河原神社がありますが、今はもう裏の方へ移転しましたわ、首塚というのがありますて、そこに首をうめたという松がありましてね。

—西松さんはその頃はどうしていらっしゃったんですか？

西松 昭和十一年頃ですかね、今

の三越の南カドのところの神戸新聞社にいましたが、その頃、三星堂さんの二階が喫茶店でね、そこが我々のたまり場でようとぐろを巻いていましたわ（笑）

十河 私も向こうへはよう行きましたわ、ようはやりましたなあ。

西松 淀川長治さんなんかもようあの店で我々と一緒にいましたわ。あの店は何年頃までやつておられたんですか？

熊田 戦前までです。砂糖の統制がありましてそれでやめたんですわ。あの喫茶店が、よく流行った原因というとやはり、買物に来られても、当時トイレがなかつたと



西松 五郎

〈神戸新聞社々史編纂事務局長〉



熊田 雄二

〈三星堂KK常務取締役〉



永田 みつゑ

〈永田良介商店〉



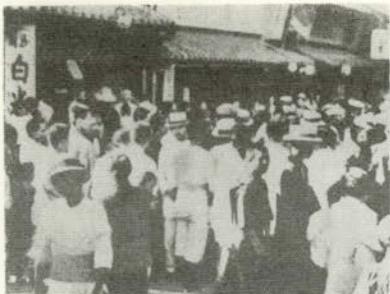
小林 延光

〈元町バザー社長〉



十河 巍

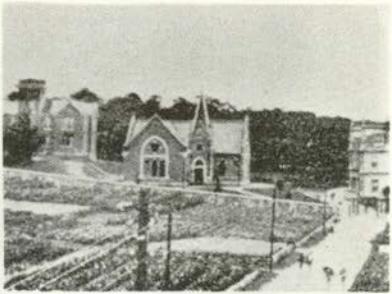
〈オリエンタルホテル顧問〉



大正七年米騒動直後



昭和6年頃の元町通



上簡井時代の関西学院

西松 あのコーヒーは、しぶい落着きのある実においしいコーヒーでした。(笑)

永田 当時としてはラジレイロの建物もハイカラやつたしね。

西松 それ、ウチが普請したんであります。(笑) 主人が歐州へ行ってね帰つて来てから作つたんです。

西松 明かるかつたですね。それに近くにダンスホールがあつたでしよう、ソシャルダンスホールが

——熊田さんはその頃どうしていらっしゃったんですか?

熊田 私はあそこで生れたんですけど十二年頃でしたか高等学校に入つてからはいなかつたんで私が知っているのは、その頃までですね。

小林 当時、ソーダを飲むというのが非常にハイカラな飲み方で、熊田さんとこでもたいがいソーダでしたねえ(笑)

十河 楠公さんの中にミズシンというのがありましてね、アイスク

リームというのが出来たから食いに行こうかいうてね、そこで初めてアイスクリームを食つたんですわ(笑) 明治四十一・二年の頃でしたかね。小学校の頃ですわ、(笑)

★布引にキングコング現わる!

——十河さんはその頃はどうしていらっしゃったんですか?

十河 ぼくは、学生時代から又新日報の記者をやってましてね。それから朝日新聞社に入つたんですわ。神戸でキングコングが出たことがあつたでしょ(爆笑)

——熊田さんはその頃どうしていらっしゃったんですか?

西松 私とこは、家がやはり洋品関係の商売をしてて、親父についてよく神戸に出てましたから、だいたい中学ぐらいからですね。それから、奉公に出されて六丁目のフナキヤに来たわけです。それでから、一丁目、三丁目と三カ所でくらしましたが、私が一番よかつた時代といつたら、スズラン燈が出来て、人がグラグラ歩いていい頃ですね。

熊田 スズラン燈が出来たのは昭和の初期でしたかねえ。

西松 西条八十さんが作られた、『港まつりの歌』と『神戸小唄』に『雨の元町スズラン燈』というのが出てきますわ。その頃、スズラン燈の歌がありますわ。その頃よく歌つたものです。

いうことと、のどがかわいても、他にあいの店がなかつたということですねえ。

小林 三宮には、ラジレイロがありましたねえ。

西松 ええ、これもぼくら楽しみにしてましたわ。

十河 ほくら、ラジレイロの歌をつくりましてね、(笑) サンパウロかアマドネス……とかなんとかいつてね。

西松 あのコーヒーは、しぶい落着きのある実においしいコーヒーでした。(笑)

永田 当時としてはラジレイロの建物もハイカラやつたしね。

西松 それ、ウチが普請したんであります。(笑) 主人が歐州へ行ってね帰つて来てから作つたんです。

西松 明かるかつたですね。それに近くにダンスホールがあつたでしよう、ソシャルダンスホールが

——小林さんはその頃は?

小林 私とこは、家がやはり洋品関係の商売をしてて、親父についてよく神戸に出てましたから、だいたい中学ぐらいからですね。それから、奉公に出されて六丁目のフナキヤに来たわけです。それでから、一丁目、三丁目と三カ所でくらしましたが、私が一番よかつた時代といつたら、スズラン燈が出来て、人がグラグラ歩いていい頃ですね。

熊田 スズラン燈が出来たのは昭和の初期でしたかねえ。

西松 西条八十さんが作られた、『港まつりの歌』と『神戸小唄』に『雨の元町スズラン燈』というのが出てきますわ。その頃、スズラン燈の歌がありますわ。その頃よく歌つたものです。

西松 うん、たしか、音楽喫茶のはじめじやなかつたですかね。

十河 和菓子屋さんで喫茶店やつたことがありますねえ。

小林 ええ、トキワ堂さんね、純日本風でカスリを着た娘さんがいてよう流行つたもんですよ。昔の元町で、もつとも元町らしいというのは、喫茶店があつたということでしょうね。



昭和13年の大水害直後のそごう前



昭和11年頃の市観光バス



第1回みなと祭の国際大行進

その頃、ぼくは大阪本社にいたんですが、水害があつて手伝つて来た時に、「しばらく手伝つてくれ、キングコングも出よるさかい」とつて（笑）

西松 昭和十年前後でしたかね。

十河 キングコングがあつちに出たりこつちに出たり（笑）ところが誰も見たもんあらへんねん（爆笑）そいでしまいに、あれウソやい出でね、そんなんもん出えへんいうウワサが出よってん（笑）

そこでそれやつたら写真撮つて証明しよういうことになつて純金のメダルを懸賞にして写真を募集したことですよ。でもとうとう松の木から木へとびうつる写真を撮つたですわ。

十河 やつぱり本当に出たんですか

十河 キングコングという名前はぼくがつけたんですよ。ほんものは大ザルですか（爆笑）

そりやあ当时、支那事変が初まつ頃で、戦死者がどんどん出よるんですよ、町が暗いしね、ちょっとは面白いことも良いだろういうことで書いとつたんですけどねえ（笑）

西松 ほくも、取材で走りまわつてきましたが、市役所から伝わつてきましてね、公務員がいうから間違いないやろいいうことでね、それで書いたんですけど今から考えた

西松 本当にバカらしい新聞ですよ（爆笑）サルの絵とか写真ばっかりでトップをかざつたんですね

西松 「どことどこで出ましたでえすわ。ほくなんか、いつこも見んで書いとつてん（爆笑）

★エエトコ、エエトコ聚楽館

——この辺で順に年代をおつていろいろとお話をうかがいたいと思ひます。まず大正元年に川崎造船

のガントリークレーンが出来、市電布引線が開通、二年に聚楽館が出来ていますが。

十河 聚楽館では、水谷八重子のチルチル・ミチルやオーロラの歌の出てきよる松井須磨子の『沈鐘』なんか見に行きましたよ（笑）

十河 ええ、ハイカラなもんが出たというて大変だったのですなあ。

西村 あの頃はもう花道あつたんですか？

十河 なかつたです。歌にあったでしょう（笑）

西松 エエトコ、エエトコ聚楽館、ハナの無いとこ聚楽館、いうてね

小林 太陽座というのがありますねえ。

永田 その当時は、たいがい太陽座ですね、相生座もありました

熊田 が、良いのは太陽座でしたわ。

永田 聚楽館が出来る前は皆、そこでやつてましたからねえ。

小林 三宮にも歌舞伎座というのがありましたがあれはもう三流ですか（笑）

小林 今の古い芸人は、みな新開地と三宮のかけもちでやつていましたねえ。今ならタクシーとばしらすぐですが、その頃みんな歩きよつたから、女人の人でもお白粉つけてあるいてるので、芸人さんやとすぐわかります。

★米騒動おこる

——大正三年、第一次大戦がおこ

るわけですが……それから七年に

米騒動がおこっています。

熊田 あの時、湊川公園で大会が

あって二手にわかれ、一方は、兵

神館焼き打ちをやり、もう一方が

宇治川のところで井上の油店で油

を取り、鈴木商店へぶちまけて放

火したんですね。消防隊が消失に

かかったんですがホースを切られ

るんで神戸新聞社の屋上から消防

にかかつたんですね。ところが水が

民衆の頭にかかつて怒ってね、神

戸新聞焼き打ち事件になつたわけ

です。

西松 現在、鈴木商店を焼いた者

はわかつていますが、新聞社を焼

いた犯人はあがつてないんですね

わ。当時川崎造船の川崎吉太郎と

神戸新聞社や鈴木商店との関係が

どうのとウワサされましたが、今、

熊田さんのいわれたことが一番よ

くいわれることですね。

熊田 私らは、ヤジ馬で小寺襲撃

についていつたですか（笑）又新

日報は無事だったですねえ。

西松 ええ……ほかに書くこと

がありまして鈴木商店に火をつけ

た本人に会いましたがね、逃げて

て時効にかかつてもう出て来ると

ですが、自分で火をつけたいと

ますわ。主義上の人でなしに、群

衆心理でやつたんでしょうね。や

つたれいうんで……。

小林 兵隊が出動して銃剣で大根

差しに二、三人殺されたという話

を聞きましたがね。

十河 それ、ぼく見とったです

わ。こう、はすかいに上を向けて

銃剣を持ってガツシャガツシャ歩

いていくわけですわ、ところが逃

げようと思っても前がつかえて逃げ

られなくてやられたわけです。

西松 記録には残つたのですが、

本当にあつたんですねえ。

十河 ええ、新開地で見とつたん

ですわ。

★神戸名物南京虫！

——その後、病気がいろいろと流

行してゐるんですが。

西松 うん、ありましたなあ。流

行性感冒とか天然痘とか。

十河 コレラが流行しましたね。

新開地の南のところで、スイカを

ぎょうさん売りよつたけど、あん

なん買うたらあぶないでいうてね

え（笑）

小林 南京虫でも、神戸が一番多

かつたからねえ。

熊田 私もよう悩まされました。

小林 私ら、子供の頃神戸に来て

南京虫にかまれてよう泣いて帰り

ましたわ。都会の人は、あまりか

まれへんねんけど、私ら三日もお

つたら足をはらして帰りよつたで

すわ。それがあるついど神戸にい

たら免役になる（笑）

西松 南京虫は神戸の名物でした

からねえ（笑）

十河 ほくは大阪の連隊でとられ

て入隊したですが、南京虫が多か

つても神戸から行つたから平氣で

すねん、免役になつて。（笑）そ

れだけ神戸は南京虫のひどいんでも有名でしたわ（爆笑）

小林 穴のあいた木を置いていて朝になってコンコンたいたら、ぎょうさん出て来ましたもんねえ

西松 その頃三星堂さんのソーダーマウンテンに入るんですねわ。

熊田 後に本庄の写真屋さんが喫茶店をはじめ、だんだん井菱さん

とか藤屋さんとか、オアシスが出

来たんですねわ。

西松 それで穴のあいた棒を寝る前に周囲へおいとくんですわ（笑）もう、おらんようになりますか。

熊田 こないだ散髪屋で足を南京虫にかまれた人がいましてね。聞くところによるといふようです。寄宿舎で新入者が皆やられるらしいですわ。戦災でほとんどいなくなつたと思ってたんですけどねえ。

永田 貿易品について入つて来たんでしょうかね。中国人にいわしたら南京虫いうけど、南京の虫と違ういうて怒つてんねん（爆笑）

——その後、大震災があつたりでいろんなことがありました。夕回町、三宮はどうでした。

十河 あの頃は、元町を日に二回ぐらい往復しようたですねえ。夕方ちょうど西を見る夕日が落ちかけてねえ、両方の屋根にくぎられた空を見ながら歩くつていうのが非常に楽しみだつたですねえ。

今、あいいうアーケードになると空が恋しいですわ（笑）

永田 本当に空が見えてよかつたですねえ、それで、元町のコットウ屋さん一軒だけアーケードなさつてないの（笑）

小林 空が見えるのが良いということアーケードを作るのに最初皆反対してたんですがいつのまにか出来てしまつたんですわ。

西松 その頃三星堂さんのソーダーマウンテンに入るんですねわ。

熊田 後に本庄の写真屋さんが喫

茶店をはじめ、だんだん井菱さん

とか藤屋さんとか、オアシスが出

来たんですねわ。

西松 その頃は六丁目、五丁目、あ

品格ある紳士服
O-SHIBATA



金 柴田音吉洋服店

神戸・元町通4丁目 神戸 34-0693
大阪・高麗橋2丁目 大阪 231-2106

神戸はお菓子の街
神戸っ子も
神戸を訪れる人々も
みんなそういうてる
鳳月堂の
ゴーフルもその一つ
オジイチヤマも
オバアチヤマも
パパもママもみんな
子供の頃から
ゴーフル党だ



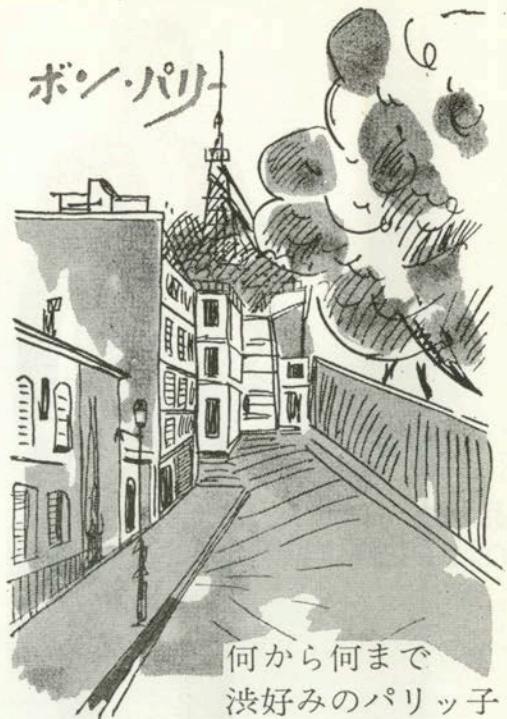
神戸にそだって 70年

鳳月堂
元町3丁目 TEL 392412~5



神戸マックグレガーショップ
サン サカエ
元町2丁目⑬7885

ポン・パリー



何から何まで
渋好みのパリッ子

ポン・パリーは洋菓子の
本場フランスの味です
ブドーと洋酒を上品に、
ミックスした風味あるお
菓子です



アルmond

本店 神戸市生田区元町通2の43
直売所 神戸大丸・新聞会館秀品店
本店TEL ⑬2203

十河 竹中郁君でもグループ作つてね。タンブリン持つて踊つてしまつたよ。今は、どこでもやつてる

西松 そりやあ、あの頃は本当に祭らしいものがありましたねえ。今は、どこでもやつてる

西松 ような踊りでねえ。十一月で寒かつたですが夜になつても群衆が東遊園地から元町の方まで連つて踊つてねえ。

永田 あの頃はたいてい店も休んでねえ、ちょんまげつけたりして個人個人で楽しんできましたねえ。小林 休まんとウインドーがこわされる（笑）

永田 それだけ激しかったんです。

西松 家でも軒並みにちょうどちんをぶらさげてね。

小林 今から考えたら単純でしたねえ、商店街なんか夜通しやってましたよ。

西松 なんかはどうでした。

十河 各町内で出してそれが東西から集つてくるんですわ。

十河 中央は元町通りでしたな。熊田 元町を通つて、市役所へ寄つて新開地へ出ましたなあ。

十河 第一回、二回は面白かったですね。今のミナト祭も考え方直してもつと改造してほしいですね。

★荒木大将—おれにかめのこタワシ

——最後に昭和十三年の災害はどうでした？

十河 あの時、ぼくは上筒井の家から、大阪の本社に通つてたんですけど、阪急が不通で大阪へ行かれへんのですわ。いつたん駅まで出かけたんですが、その間だけでも、流れられて来たオバアさんや、材木で頭を割られてる人なんかずいぶ

ん助けましたが、何せひどかつたですわ。電話で本社と連絡とつたのですが知つとらへんねん。それ

でさつそく原稿送れいわれて送りましたが戦争中のことで、あんまり大きあつかわなかつたんですね。で午後から支局へ行つたら

お前歩いて大阪まで来いいわれましてねえ（笑）仕方ないですよ。

歩いて行きましたわ（笑）川を渡るのにロープが張つてありましてそれを伝つて渡りましたが命がけですわ。ところが一つ川を渡つたらまた次の川を渡らないかんのですわ。一つづつサルみにロープを伝つていくんですよ（笑）

結局午後三時に出て大阪に着いたのは夜なかの十二時半ですわ。すぐ記事を書きとばして紙面をうめたんですが、朝六時頃ウトウトしてた時にたき起されて、大阪市が救援隊送るから案内してくれいわれてねえ（笑）大阪港から物資を満載して神戸へ急ぎましたわ。

それから、二・三日して荒木大将が来ましてね、いろいろ案内してまわつたんですが、両親、兄弟をなくした六つ位の男の子が一人取り残されて親・兄弟の死体引取人になつとるんですわ……。荒木大将それを見て泣きよつたですわ。軍人でもなかなか人情のある人でしたね。そんなことであちこち案内してまわりましたがぼくが風邪をひいてしまつてね。そして荒木大将が東京へ帰つてしまふとして「風邪は万病のもとだから気をつけないかんよ」というカメンコタワシを二つ送つてきたですわ（笑）背中ようこすつて風邪ひかんようにせえ（うこつちや（爆笑）

びんく・こおなあ



その道の通でいらっしゃる殿方四人がある週刊誌で人気女優五十人品定めをなさつておられました。演技、ムード、スタイル、声服装、容貌の六つが基準になっておりました。が、お色気鑑定というからは、からだの部分に焦点が当たられるのは当然です。

そこで、どんな部分が一番多く出てくるか。しさくに熟読玩味しましたところ、意外にバストの魅力についての発言はなく、出てくるのはヒップのお話ばかり。たとえば「とくにおしりが下がりすぎているから六十五点」「脚とヒップの色気は充満」「ヒップのまわりに中年太りの感がある」「脚は太いがヒップの格好はいい」「ヒップはダブダブ」これは有馬稻子、小川真由美、淡路恵子、富士真奈美、池内淳子のことといったものです。どのヒップが誰のものかお当たりあそばせ。フランスの大画家ドガのところへ、従妹をモデルに使つてくれ頼んできた男がありました。ドガは多くを聞かかず、「従妹さんのおしりはナシ型か、リング型かね。リング型なら見たくもないね。ナシ型なら連れてきなさい」ナシ型といふからにはソバカスでもあるんでしようか。おしりは「第二の顔」とはよくいつたものです。和洋を問わず、殿方はおしりが好きというお粗末。

(T)

杉の サービスランチ

落着いた雰囲気
素朴な立杭焼
コクのある洋食



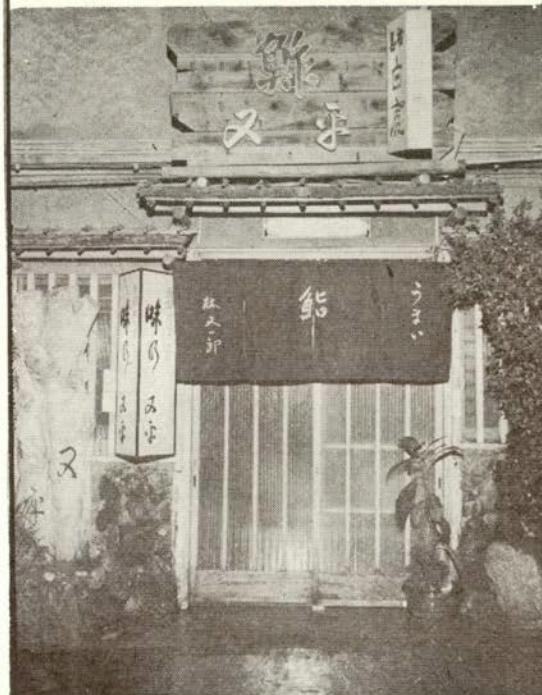
150円

グリル喫茶



元町通3丁目
本高砂屋2階
TEL ③37368

神戸っ子の味覚に
ぴったり、又平の早駒れ鮓



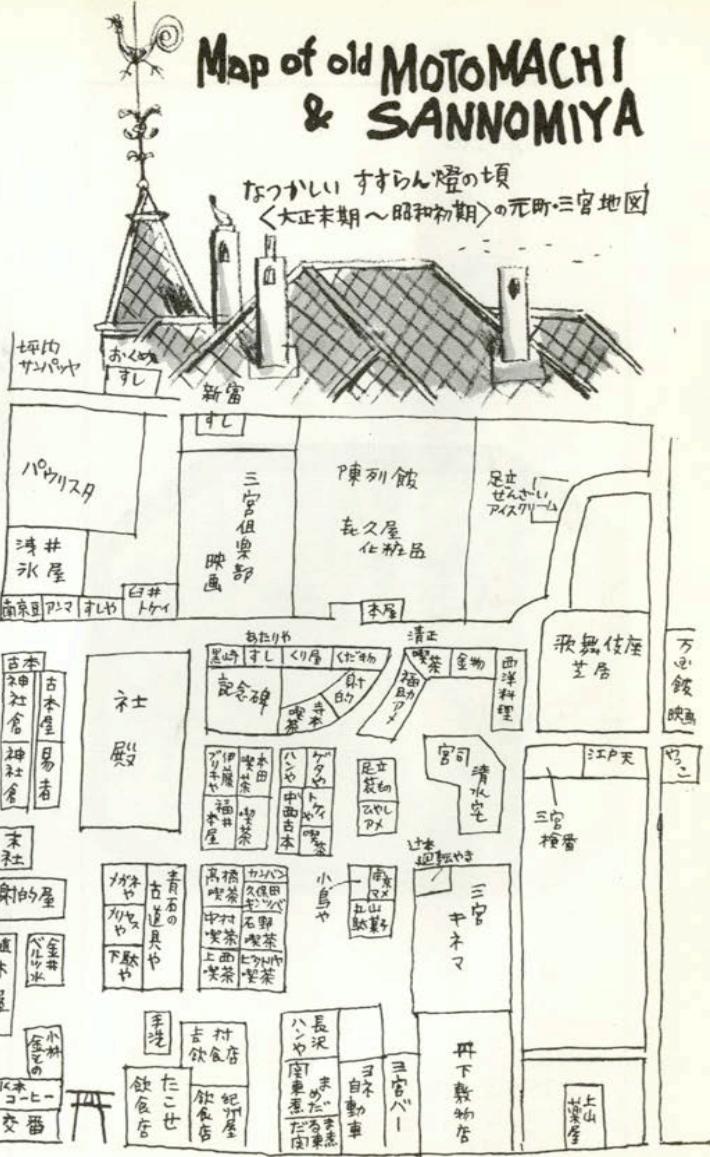
神戸三宮生田ノ社ノ西

鮓の又平

電話・三の宮 ③3 0935

Map of old MOTOMACHI
& SANNO MIYA

なつかしいすずらん燈の頃
（たかがねへ、昭和初期）の元町・三宮地区



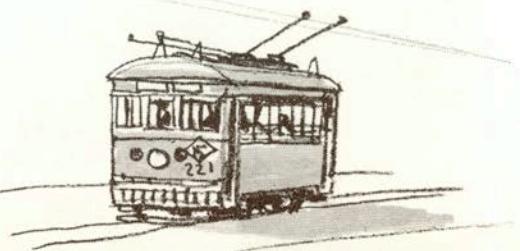


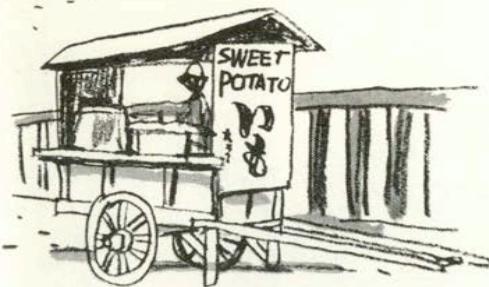
2 丁 目

一 丁 目

元町通

中村ネル
錦屋金坊
松本シルク
島田運動具
日光セトモ
大岩ガバニ
三ツ輪
兜玉印刷
アルソホール
サキ食器
島田洋服
森田両替店
三十七星文具
エリ吉小間三の
松永額様
石本シルク
大蓄ヒド
千代田帽子
竜倍園あ茶
イクシマ帽子
カワムラ洋装店
植田靴
梅谷食料品
山村兩替店
山本砂糖
改田ジドモ服
木村履きもの
山本セトモ
次谷文具店
面川帽子
大和商会ギフト
野村商店
山村商店
小川金モウ
片野田洋服
林カサ屋
市田亭真饅頭





昭和10年2月号の「神戸」より。



その頃の少年



すずらん灯がまたばかりた
大正7年頃の元町通(一丁目)
自動車が見えます

三葉堂彌利所
柴田洋服
松井洋田
エリート婦人服
永文具
木村昇服
大里屋モスリン
伊ナ久印判
浪花堂漆器
歌知屋菓子
神戸がス飲
鶴田屋小間物
尾彌屋帽子
吉川商店
住田屋内科
富田屋力才筋
藤原医院
日廿番
西尾洋服

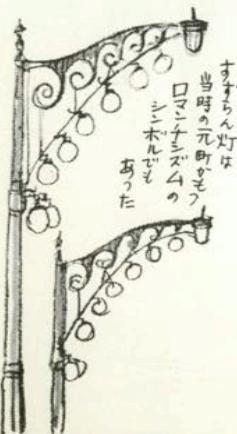
4 丁 目

辰巳堂 阿島只コ
まると蟹の
福建カヘ
フキヤ洋傘
鷺尾洋眼
山口銀行
本庄 宇真機
喫茶
柴田洋服
マスコット
牧場コットウ
エヌロード
生田理髪店
小林コットウ
養老堂菓子
大郡電気
幡 新
トミヤ菓子
華堂
今岡工房
久松
元公すや
全館新系
木本
三木
宮益
神保堂
マルゼ
勝香
紫峰
洋舎
中村屋
庄野
コトウ
永良
原具
放三
香堂
カバン

三 丁 目

コドモ店 唐木洋品
三茶堂食器店
アリ善 小間物
松花堂せんべい
和泉屋トケイ
壇上唐木細工
田村たひ
まるまる籠物
木下籠
やっこ玩具
山下木眼
アミヤ蝶人形
今井商店
片山洋服
大丸食堂
未壁字真機
京綱屋
北川電気器具
三木セトモ
古宮衣装店
バスケヤ森田商店
門坂屋洋傘
佐野洋食器
三木本眞珠

ニヤドリ
フーマー・シード
美田時計
高砂屋
泰山洋服
月堂
美濃屋
駒野吉
メートル商会
大和三ツツ
トラヤ帽子
武村
時枝人形店
湾辺カバン
三好鞄
海文堂
ニシマン下駄屋
美津濃通勤靴
山藤屋洋菓子
鴻池銀行
浜田トケイ
三原酒屋
中村漆器店
ヤヨイ玩具
和泉竹器
朝戸印賣店
篠崎トケイ
福助小間物
内モスリン
沢田米屋
ほていみ葉菓



ハカマをはいて
大きなショールをはおつた
よつとイカす
女性风俗
でした



昭和11年頃の市觀光バス



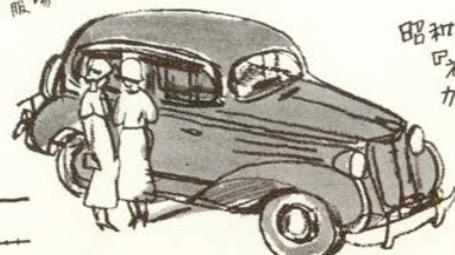
昭和6年頃の元町

目 丁 五

山崎歯科	坂部時	藤忠株式会社
みや吳	三和クリーニング	丹波屋雜貨
小林歯科	中村木屋	西村眼鏡
片山洋反物	宝文館	生田食金屋
うどんや太陽洋服店	森川眼鏡	キツヤ洋品
トライアルズ	十合吳服	十合吳服
西尾屋	太陽洋服店	キツヤ洋品

目
丁

三、越、岩、小、酒、屋、宋、船

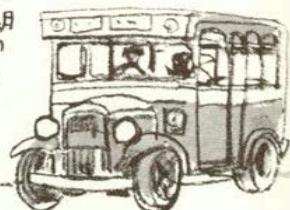


昭和10年8月号

『神戸つう』にのつた
カネキの広告宣傳より

当時の流線型。
1935年新シボレー
マスター型セダン

昭和新美市バス



地図と絵・松岡 寛一

神戸つ子の
不^レ明



本棚

「横濱とござおり」 横濱圖

本書は、東の横浜と並ぶミナト町神戸の秘密と魅力を探つて、あますところなく神戸のすがたの特長をえがいている。

たわむれる北野町界隈。昭和13年の大水戦争の空襲などびきななる災害にも、神戸のものも合理的な気象、常にとらわれない精神は失われず、見事に立直り、さら来都市への構想にむかって歩みゆく神戸の姿である。著者の経験的な筆は、思ふにいはれないのである。神戸の街を育む人間にせひとともおすすめする格好の書物。(至誠堂新書二二四ページ。二五〇円)



「世界原色百科辞典」小学館編

百科辞典は、種々出版されているが、10月に出る小学館の世界原色百科辞典は、従来の百科辞典の図版が白黒だけに、引いて見た時に、感じが实物と違つてもどかしく思ったのか、オールカラーで、バラバラ見えても楽しい。国語辞典としても、図鑑、美術書、地図の図版など、そのスペシャルリストと言えよう。(全8巻子約特価ゼネラリストと販売される) 各巻一、六〇〇円 一括払い一、五〇〇円 (一、三〇〇円の割引)

随筆集「断雲」直木太一郎
神倉倉庫KK社長であり、随筆家でもある
直木太一郎氏が神戸船舶俱楽部文化部発行の
季刊「海運文芸」に毎号載せていた随想を中心



「からす料理」なか・けんじ詩集は読むだけで樂しき詩集である。歌を期待して読むと失望するだらうが、そんな窮屈は私でなくておいて、週刊誌のつまらうよりもで読みとぼすと、歌が聞えてくる。あなたの心の中において、言葉にならないもの、理路絶然と言つて見れば、何とも感じない日常的なことが、眼になつて聞えてくる。(論の発行元 〔新日本書店 1940年〕)

「ある青春の自叙伝」山本博繩これは女の人が好む恋愛純情ではない。ある男が過した人生を周囲の人々と共に迷い、考えながら進んで来た記録である。生きる勇気を与える本でなく、生きる勇気を考えさせる本である。

★神戸の
書店から

本のデパート
日東館
NITTOKAN
大丸前 (39) 2491~3

前代の智慧を驕うるに、「一万円といふと、顏色を変える人が多い」と日本では中流階級のことを言つたものだが、日本では「中流はともかく、量の点のでは、世界有数の、読書人口をかかえている。経済成長と教育投資の相関が窺はれてゐる時代に、日本にどう成らんか」といふべきことと言つてよい。また経済成長が個人の地位や、生活の向上に結びついたために、人はスペシャリスト、専門家であると共に、ゼネラリスト、一般的な知識も要求される。自動車会社などがセールスエンジニアを採用し、主婦も家庭の専門家であるだけでは不足で、上昇する生活水準を保つたまには、電気や機械に弱くては勤まらなくなつて來てゐる。

このような知識の分化と拡大に追いつくためには、その供給者である書店は中途半端な売場面積では、要求に応えることが出来ないのは自然の勢である。この時、三宮の日東館が11月1日を期して売場面積を倍加して、一躍マンモス書店となるのは時期を得てゐる。声援して頂きたい。

水の葉のそよぐ エコノミスト編	四六〇円
グレー・ス・メタリックス	四二〇円
日本出版販売K.K.	四二〇円
浪花千景	五八〇円
高木栄光	三〇〇円
ゼロの蜜月	光文社
健康こ意見番	朝日新聞社
深瀬頼二	四二〇円
聖少女	新潮社
倉橋由美子	四二〇円
★書店のマンモス化	
ガーディナーといふ男、英國人だが、こ んなことを言っている。例え可動百萬とも、高い なら二十万でも、例え可動百萬とも、高い	

ココストダウソノ光文社	占部都美
私の幼児教育論 岩波書店	
楊貴妃伝 松田道雄	
少年朝日年鑑 中央公論社 井上靖	一五〇円
朝日新聞社 五八〇円	五〇〇円

★ベストセラー〈日東館九月末調べ〉

大丸

★書

神戸店が
デパート
東京
39)

支の
から

卷三

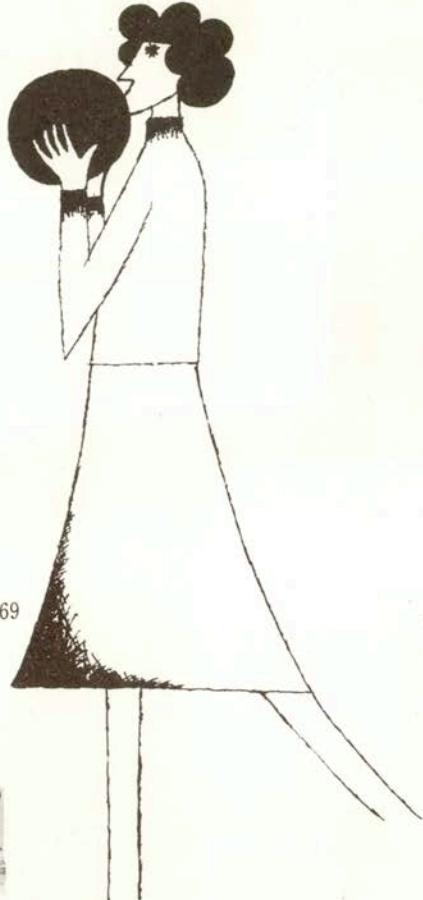


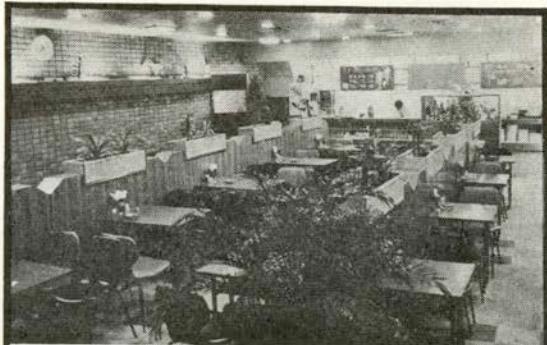
*正しいボールの投げ方

1. スタートに直立の姿勢をとり、ボールを両手で胸の前にもち、ねらいを定めます。
2. 右足を踏み出し、それと同時にボールを前方に出します。ボールをあまり高く上げないよう注意します。
3. 左足を出すと同時にボールを自然におろし、左足が着くときにはボールはからだの横にきて、スイングに入ります。
4. 右足を出してボールは後方にふられます。右腕は十分伸ばして振子の運動となります。
5. 左足を出しヒザを少しまげ、ボールをだんだん低く下げ、左足は多少スリップしながらファール・ラインの前でとまります。もっともボールは下にきてから離れます。
6. ボールを離した右手はまっすぐふり上げられ、左足はアプローチから離れず、右足でバランスをとります。

アバベスター・レーン

神戸市生田区江戸町95(花時計西側) T E L · 39-4169





しゃれたムードのグリル

*毎日メニューの替る
ビジネスランチ

- A ¥200
- B ¥300
- C ¥500



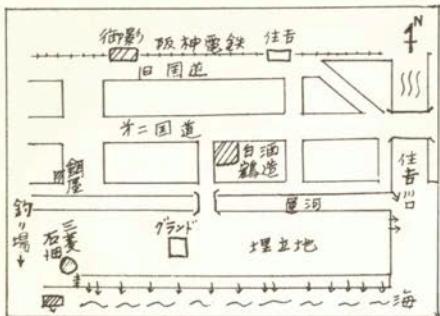
GRILL COFFEE スリースリー
TEL 31070-1





写真は台風前後の住吉御影下の岸壁

下は住吉岸壁の釣り場図



最近の釣ブームで釣人口が増し、しかも漁師の乱獲によって魚類がめつきりと少なくなった。私のもつともよく行く釣り場を二ヵ所ほど紹介したい。まず東神戸では青木、深江（阪神電鉄の各駅より五分）の浜の各波止から竿釣または投釣で、テンコチ、ハゼなどが半日で二〇から三〇は釣れる。西側によると住吉川尻の湾内での投でハゼが二〇ほど釣れる。いずれも形は一三cmから二〇cm位で投げる距離は二、三〇mが手頃である。この川尻の両側埋立地の南側一帯の岸壁では（ただし魚崎側の岸壁は工事中なので早朝までは夕方しか入れない）リール付きの短竿（一七一・五m）でのき

釣りで、手のひら級のシマダイを半日で三〇ほど釣れる。餌は、あけみ貝（一名クジャク貝）またはゴカイがよい。この岸壁では、一時、サビキ釣りでハマチまじりでサバ、コアジなどが三時間で二〇から三〇もあがり釣り人達を大いに楽しませたが、現在ではコアジ、イワシの短ザク切りの餌で三〇〇gから四〇〇gのサバが釣れるが数には期待できない。仕掛けはハリス二号、針は袖七号を二〇cm間に隔に三個ほどつける。竿は三間あれば十分である。夜釣りではマムシ餌でときたまチヌがあがる程度で期待はできない。川尻西側の岸壁は長さが約五〇〇mあり、場所としては三菱石油側か東側がよ

ようだ。餌屋は阪神御影駅西側の南北道路を浜に下ると西側に清水餌店があり、いつでも餌を置いている。この川尻一帯で釣りを楽しむ場合は、三間の竿、リール付短竿、および投竿（スピニングリール付）を用意すると、あぶれることはまずない。

★神戸を楽しむ私の「」

★神戸を楽しむ私のコース(14)

神戸製鋼所中央研究所分析課
くろがね俱楽部釣部

また釣る魚によってもかなり異なるので私の紹介したものが最良ではない。餌屋は、駅の山側の二軒、浜側の三軒の釣道具店にある。垂水は子供連れでも危険はないので家族揃って一日を楽しく过せる釣り場である。

神戸遊戯誌

26



コヨリティ稜線をゆく関西学院大学山岳会ペルーアンデス探検隊

〈写真提供 関学山岳部〉

③ 重雄木青

— 78 —

登山が時代と共に進展して、単なる山歩きや宮詣り程度のものから、高山登はん技術を身につけることによつて、スポーツ的要素が濃くなってきたことは前回で述べたとおりだが、戦後から現代にかけてはその傾向は決定的となり、日本山岳会や各大学などの主だった山岳会はいずれも世界のトップ・クラスの高峰に挑戦することを第一目的とするようになつてきた。

明治三十八年に創立以来、昭和十六年に社団法人として認可されて今日にいたっている日本山岳会自身および同会の関係した数多くの海外遠征登山を見ても、ほとんどが世界的高山である。だが、日本山岳会が戦後果たした大事業はなんといってもネパール・ヒマラヤの中央部にあるマナスル（主峰・八一二五メートル）遠征と登頂の快挙だろう。マナスルへは一九五二年（昭和二十七）の踏査、一九五三、四両年度の遠征を経て、ついに一九

五六六年（昭三十一）五月の九、十一の両日に第一および第二登はん隊共に初登頂に成功して、全員無事帰国したが、五三年の第一次遠征メンバーの一人に甲南高校OBの田口二郎がいた。田口は先に書いた芦屋のR・C・C（ロック・クライミング・クラブ）花やかなりし頃の学生会員だった。次に、日本山岳会の関係した他の遠征登山には、大正十四年楨有恒らによるカナディアン・ロッキーのアルバータ初登頂、昭和十一年立大山岳部堀田弥一らによるガルバーラ・ヒマラヤのナンダコート初登頂、同二十八年早大山岳部による南米アコンカグア主峰および南峰登頂、同年京大学士山岳会今西寿雄らによるアンナブルナ第二峰、第四峰試登があった。その後関西の大学関係だけを拾つてみても、昭和三十年の京大のカラコラム・ヒンズークシ学術探険、翌年同大学とパンジャブ大学合同の西カラコラム・東ヒンズークシ探険、三十二年

両大学によるスワート・ヒマラヤ学生合同探険、三十三年神大、チリ一隊合同による南米バタゴニア探険・アレナレス初登頂（この探険には、後年タヒチ島で行方不明となつた故高木正孝教授も参加していた）、京大学士山岳会によるカラコラムのチョゴリザ初登頂などが記録された。このほかにも今日までに日本山岳会および関西各大学等による海外遠征がいくつか試みられたが、近いところでは、昨年（昭和三十九年）、関学山岳会はカナダローガン峰およびベルアンデス探険に昭和三十四、三十六年にかけて成果を収めた。また、同会のOBで愛知大学生遭難事件取材有名になつた現在朝日新聞カメラマンとして活躍している藤木高嶺（藤木九三の令息で西宮市に在住）は、貴重な未開地探険記録である「カナダ・エスキモー」と「ニユーギニア高地人」によつて昨年度の菊地寛賞を与えられている。

このように、近年日本の登山界が、相づく海外遠征登山によつて、世界第一級の登山技術と学問的知識を内外に示しつつあることは、同慶にたえないところだが、初期には個人的な单なる好奇心から出発した登山が、今日では完全にスポーツ化され、技術的にも専門化された革新の裏には、日本人の人一倍激しい積極精神と勝負根性がひそんでいることを見逃してはなるまい。つまり、登山がスポーツである限りは、第一番に次から次へ相手を打ち負かしてゆくといふこのファイトがなければならない。相手が山であれば、一つの山からより高い、またはよりむずかしい山へと、つぎつぎに取り組んでいこうといふ態度こそがスポーツとしての登山の本来の姿なのだ。だから、日本の第一級の登山家のファイトが、こんごとも残された世界の未踏峰に向かつて燃やされることは、当然のことだろう。ただ、世界的な登山技術の進歩によつて、今日では未征服の処女峰といふものの数が、ヒマラヤ山脈中でもしだいに数が少くなりつあることは事実だ。その点登山家からみれば、地球もずいぶん狭く、低くなつた、といえよう。

ナレス初登頂（この探険には、後年タヒチ島で行方不明となつた故高木正孝教授も参加していた）、京大学士山岳会によるカラコラムのチョゴリザ初登頂などが記録された。このほかにも今日までに日本山岳会および関西各大学等による海外遠征がいくつか試みられたが、近いところでは、昨年（昭和三十九年）、関学山岳会はカナダローガン峰およびベルアンデス探険に昭和三十四、三十六年にかけて成果を収めた。また、同会のOBで愛知大学生遭難事件取材有名になつた現在朝日新聞カメラマンとして活躍している藤木高嶺（藤木九三の令息で西宮市に在住）は、貴重な未開地探険記録である「カナダ・エスキモー」と「ニユーギニア高地人」によつて昨年度の菊地寛賞を与えられている。

このように、近年日本の登山界が、相づく海外遠征登山によつて、世界第一級の登山技術と学問的知識を内外に示しつつあることは、同慶にたえないところだが、初期には個人的な单なる好奇心から出発した登山が、今日では完全にスポーツ化され、技術的にも専門化された革新の裏には、日本人の人一倍激しい積極精神と勝負根性がひそんでいることを見逃してはなるまい。つまり、登山がスポーツである限りは、第一番に次から次へ相手を打ち負かしてゆくといふこのファイトがなければならぬ。相手が山であれば、一つの山からより高い、またはよりむずかしい山へと、つぎつぎに取り組んでいこうといふ態度こそがスポーツとしての登山の本来の姿なのだ。だから、日本の第一級の登山家のファイトが、こんごとも残された世界の未踏峰に向かつて燃やされることは、当然のことだろう。ただ、世界的な登山技術の進歩によつて、今日では未征服の処女峰といふものの数が、ヒマラヤ山脈中でもしだいに数が少くなりつあることは事実だ。その点登山家からみれば、地球もずいぶん狭く、低くなつた、といえよう。

だが、同じ山でも、登るシーズン、コース、方法の相違によっては、いくらでも新しい興味と困難さが見出せるわけだから、登山がなくなるなどという心配は、まだ先の先の話——ということになろう。ことに年齢という点から考えても、陸上競技や野球、水泳などとは違つて、老年になつても完へきな計画性と努力しだいでは、かなりの高山への登はんや探険が可憳なのだから、登山こそは人間一生の関心事、いな、最も純粹な勝負事といえるかもしれない。そういう意味で、今日までの日本登山界に多くの輝かしい諸先輩を送つた神戸や関西の山岳会から、今後さらに優秀な後輩が続出することを期待するものである。

さて、最後に登山家についてのあれこれ話を二つ三つ……。神戸出身のわが国登山界の大先輩に近藤茂吉がいる。彼は近藤商会（居留地の百番館）の社長で現在東京に住んでゐるが、八十歳になつてからも、かなり高い山に登つて、若い登山家たちをビックリさせている。現在東灘区岡本に住む素封家の中原繁之も高齢だが、近藤と同じく元気な老登山家の一人である。

また、登山家に著名な文化人が多いことも話題の一つといえよう。まず、作家の深田久弥は古くからベテラン登山家だが、昭和三十三年五月にもジュガール・ヒマールを踏査して元気なところをみせた。同じ作家では大仏次郎と小林秀雄らが登山家としても著名だし、女性では日本最初の女性アルピニストとさわがれた黒田初子（料理研究家）と四家文子（スキーム）がいる。

関西陣では京大の桑原武夫（ドイツ文学）が以前から有名だが、同じ三十三年八月にチョゴリサ登頂に成功している。デザイナーの田中千代、芦屋生まれの画家の山川勇一郎らの名前も忘れるわけにはゆかない。もう一つ、現在の神戸では関学、神大、甲南大などの伝統ある学生山岳会のほかに日本山岳会支部（神戸から三十名参加）が特に活発であることをつけ加えておきたい。

神戸うまいもん巡礼

赤 尾 兜 子

No. 37



明石「かき繁」の磯の香りを残す新鮮な魚料理

の漁獲高がめっきり減りつつあるのが嘆かれるほかは、美味たることに変りはない。西宮のえびす祭りに社前の海で漁獲したものを供えることから「前魚」という名が出た。そんな話が、すでに歴史上のことになってしまったこのごろだから、時代の変化には抗しようもなかろう。

ともかく、まだいまのところでは、明石では鮮魚が食べられる。

それをすしにしているのが菊水鮓支店（国電明石駅下車南へ十分、明石銀座東入る桜町二丁目）である。この店、戦前約三十年鮓本店でぎつていた楠政一さんが、一時鮮魚商をやり、二十四年に独立してすし屋となつた。したがつて、店歴は十数年、さして古くはないのだが、魚に目がきくだけあって、「前もの」つまり明石の海浜からあがつたばかりの、すばらしくいきのよい魚をタネにしたすし、それでスジを通して、いきおい客に知れ、それが今日の声名をえることになつたのである。

現在は、養子の秀雄さんがマスター、四・五人の若いにぎり手もいる。

今月は、すこし足を西へのばして明石の味覚を紹介しておこう。
明石といえばタイ、古来その味、姿には定評があり、いまもってその名は全国に広く知られているが、今日そ

ある。冬場は、タイのビンチヒッターとしてヒラメが登場するが、明石産は折紙ずきだけに、みごとな味だし、またヒラメの漁獲高だけはいまもすこしも減っていないので、将来も安心できるというもの。ともかくこの店では、養殖ものはいっさい使つてない。

ついでに、刺身も冴えている。活魚を材にするのだから、冴えているのは当然ともいえるが、伊豆産のワサビ上物のつけ醤油をそろえ、にぎりもいいが、刺身通にはこの賞味もすすめたい。

定員約三十人、地元明石の客より、むしろ阪神間の客方が多いようだ。それは中身と値段を検討して、足代を出して來ても損がなからだらうと思われる。値段はにぎり二五〇円から、ちらしづし二〇〇円から。

そうした明石のこんどは魚料理を楽しみたい人には、かき繁（国鉄明石駅南、錦江橋東入ル、明石市中崎海岸）がある。

創業いらい五十年、女人の経営であったが、この四月から菊水鮓支店の楠政さんの経営にかわった。といって、以前と大きな模様がえがあるということではない楠さんが、きたえてきた魚をみる鑑識眼を加えて、タイ料理をはじめ、四季のしかも、磯のかおりのする魚たち（カレイ、メバル、キス、オコゼ）の持ち味をフルに生かして調理し、冬場は魚ち



いけものの醍醐味が味わえる明石の「菊水鮓支店」

りとかき料理でゆこうといふことなのである。波の美しい明石海峡をはさんで、南に淡路島がみえる街なのに、この街の海浜部は、なぜか騒々しく垢ぬけしない。しかしそうしたなかで、この店は、かなりの清閑をもっている。神戸や大阪あたりから出かけていて、それだけの価値があるといえるだろう。

八つの美しい座数があり、三、四十人の宴会もできるが家族連れや婦人客の歓談にも適している。会席料理は一五〇〇—一二〇〇〇円、かき料理は時価。

明石は、神戸と発展してゆく播州工業地帯の間にはさまっている。昔からの魚どころという名は、残してあるが魚だいにあがり、しかもいい鮮魚は生産地としての価格をはるかに上回っている。そこらにこれから明石の魚料理の問題点があると思われるが、日本に名だたる明石のタイや魚の料理をどう維持してゆくか、よく考えてほしいものである。

紳士入門 (32)
How to be a gentleman

ドクトル紳士

文・竹田洋太郎
え・石阪春生

紳士という生物は、別に特別の水域に棲息しているわけではない。普通私たちの近辺に見出される紳士は、たとえば経済界に多いわけだが、政界にもまれには紳士があり、最近では労組指導者のうちに多くの紳士が発見されたとの報告がある。

ここで、あえて職種別紳士録を作成する意図は筆者にないが、いわば「各論」という立場で紳士の存在する事実をとらえてみたい。

その一つとして挙げるとすれば、医師ではなかろうかと思う。社会で尊敬を受ける職業の上位には大学教授などともに医師がかぞえられるので、医師に紳士が多くうと想像できるが、そこにはなにかの秘密があるのだろうか。もとより医師は患者に対して生殺す奪の権を握っている。(生かす権利はあっても殺す権利はない)、医師から主張されるだろうが、誤診による死亡も考えれば、まあ敢てこういう次第である。患者としては、そのくらい医師を信頼しているのである。

また、医師は一人の科学者、技術者であるばかりではなく、社会への関心、人類へ関心の深い人も多い。シバ・アイツア博士のごとく、近ごろは社交的クラブにも多数多くの医師を見かけるが、これは一面、医師が眞の紳士たるべく研鑽に勉めておられる一つの証拠とも受けとれるのである。

それなら、医師教育において、同時に紳士としての教育が行なわれているかどうか。現代の医学教育は、紳士である教授による無言の人格陶冶もあるが、同時に医局におけるイジワールの伝統が、大いに紳士教育に貢献しているのである。

しなら、医師教育において、同時に紳士としての教育が行なわれているかどうか。現代の医学教育は、紳士である教授による無言の人格陶冶もあるが、同時に医局におけるイジワールの伝統が、大いに紳士教育に貢献して

いるのではなかろうか。

大学を卒業しても、インターンという期間がある。最近インターん反対の意見も学生から出ているようであるが、そのやり方について改善すべきは当然であっても、紳士である医師の養成には、インターん時代にイジワールされ、シゴキを受けることも必要ではないかと思われる。さらにその後も無給副手、無給助手として、教授の回診につき従う。その列の順序も、軍隊以上の厳密な序列があるといふことだが、一言にしていえば、これもイジワール・システムの粹となるだろう。かの英國パブリック・スクールにおけるイジワールやシゴキに共通したものがあるのである。「無給」であることについては、たしかに一考を要するが、一般に高等専門教育が野放図に行なわれている現今、ここにイジワール教育が温存されていることに敬意を払うべきであろう。

さらに、開業医なり、病院で勤務するという場合には医師として最高の能力を發揮しなければならないのは、人間の観察力である、これは必ずしも医師として科学的に患者の病気を診断することだけではない。患者、というより眼前にいる一個人の人が、どういう人間であるかどのような社会的地位にあり、どのような生活をし、どのような道楽をしているかも識別しなければ医師とはいえないのである。

しばしば繰返したように、紳士は「人間觀察力」においてすぐれていくなくてはならない。それがなければ、紳士として相手にイジワールすることができないからであるが、医師の場合にはその職業上、人間觀察を数多く行な

わねばならないのであるから、ここにおいても医師が紳士となる条件が備わっていると見るべきである。

ただ、混乱のないよう申上げておきたいが、人間観察の場合、その対象は紳士淑女でなければならぬことではないのである。紳士淑女を観察の対象としつつも一向に自ら紳士でない医師もあるし、シユバイツァー博士のようにアフリカの原住民を観察しつつ立派な紳士である人物もいる。人間観察より聖徳太子の観察に重点が移れば目がくもるのは決して医師のみではないが。

しかし、医師諸先生方からは「人間観察より点数計算の方がしんどい」という意見も出されている。まことにご同情にたえないものであるが、点数計算の疲れは、女性観察等によって癒すこととしていただきたい。

そこで、医師としてのイジワルは、いかなる場合に発揮されるべきか。これは、かつてカルテにわかりにくいでドイツ語を書いたのもその一つである。診察した結果を

医師はどう思っているか、患者にはサッパリわからない。となると医師にすべてをまかせるより仕方がない。不安が増せば増すほど医師の権威は高まる、といったことを考えてドイツ語でやったものだろうと思う。最近は英語、学名はラテン語というのが多いようだが、これとて患者への一種のイジワルなのである。そしてその最大のものはガンの患者にガンであることを打ち明げず死なせること。打ち明けた方が患者も観念するだろうがそういうところがイジワルな仁術の仁術たる所以なのである。

紳士でない例一つ。政界最高の実力者が死んだとき、医師最高の実力者が「先生はおかれになりました」と告げた。この場合、やはり紳士である医師は「おれのいうことを聞かないので死んじやつた」くらいっておくべきだろう。

